

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 26日は、低気圧がオホーツク海へ進み、気圧の谷が北日本付近を通過する。高気圧が東シナ海へ移動する。
- 27日から28日は、高気圧が日本の南へ移動し、気圧の谷が東シナ海から西日本南岸付近へ進む。
- 3月1日から2日は、気圧の谷が黄海から日本海へ進む。日本の南の高気圧は動きが遅く、日本付近は暖かい空気が流れ込みやすい。

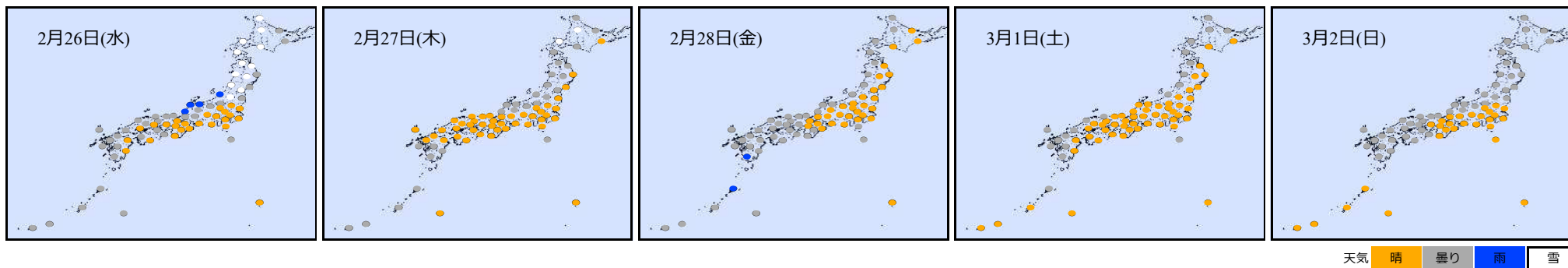
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日頃は、オホーツク海へ進む低気圧の発達によっては、北日本では大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

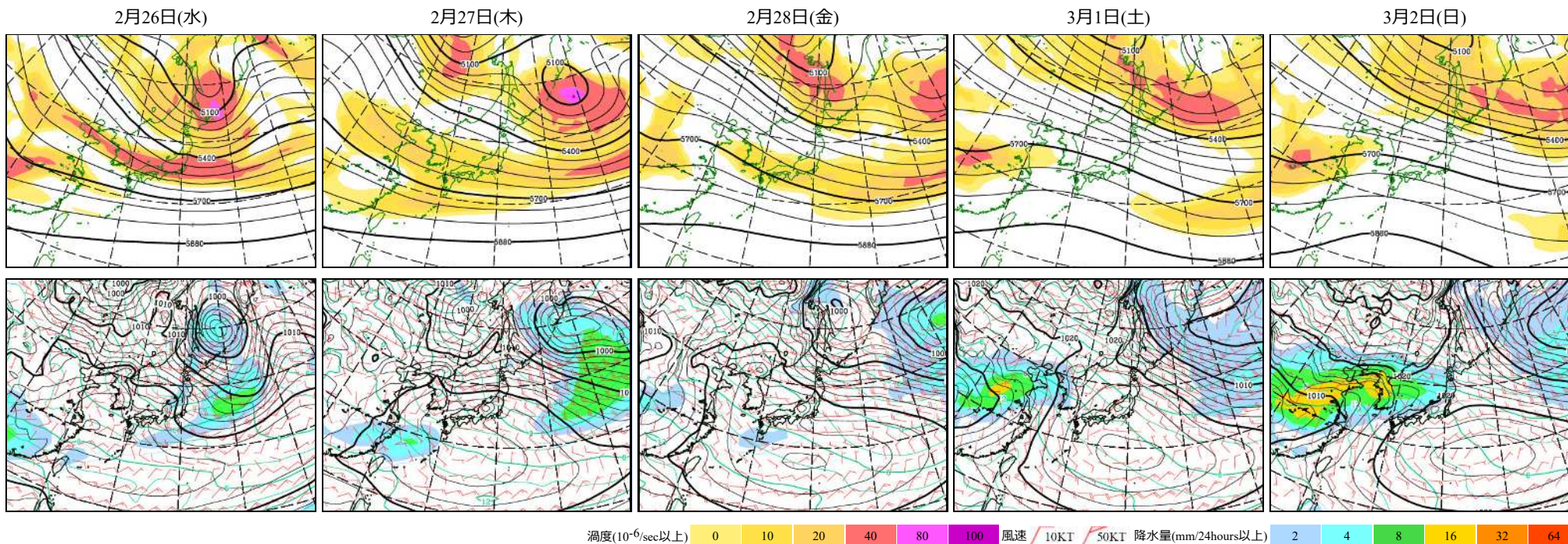
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

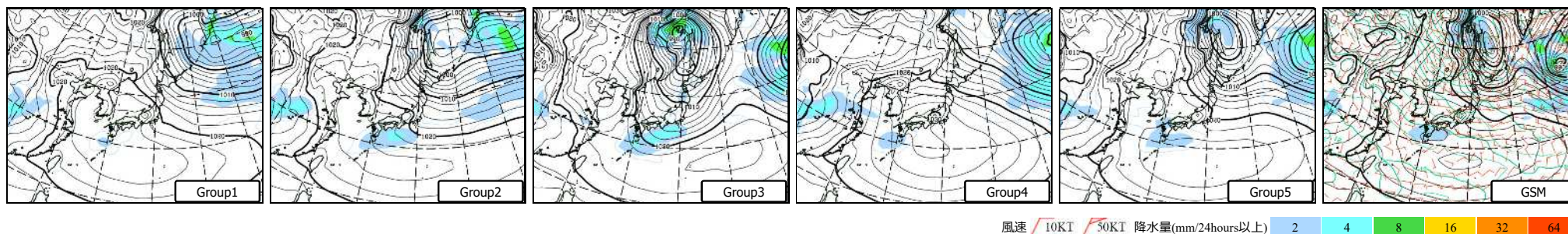


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、晴れや曇りの日が多いが、28日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや晴れの日が多いが、28日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月28日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、27日は千島の東の寒冷渦が明瞭となり、サハリン付近のリッジが強まった。28日に北日本付近を通過するトラフが不明瞭となり、3月1日は日本の東のトラフが浅くなった。地上は、27日から28日に東シナ海から西日本南岸付近へ進む気圧の谷がやや明瞭となった。
- 各モデルの予想は、28日頃に西日本の南岸を東進する気圧の谷は、降水域が九州南部にかかる程度で揃ってきた。1日以降、西日本付近の5700mのリッジについてはおおむね揃っているが、北日本付近へ進む5400m付近のトラフの動向はモデル間の差が大きい。
- スプレッドは、期間の後半は大きく、5400mと5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。